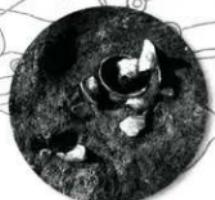


第7回

出土文化財展



吉岡原遺跡

幡ヶ峰山遺跡

日 時：平成23年7月6日(水)～7月10日(日)

午前9時から午後5時まで

※6日(水)・7日(木)は午後7時まで

※10日(日)は午後4時まで

場 所：掛川市立中央図書館 1階 生涯学習ホール

掛川市教育委員会 社会教育課

幡鎌地区初の発掘調査

はたかまみねやま いせき

幡鎌峯山遺跡

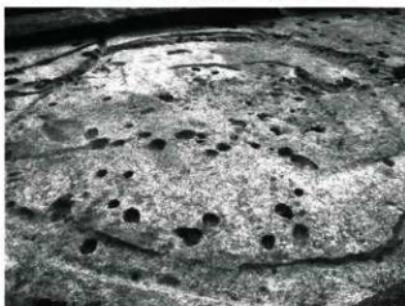
1. 調査地 掛川市幡鎌
2. 調査原因 草園の改植
3. 調査面積 1,115 m²
4. 調査期間 平成 22 年 5 月～平成 22 年 10 月
5. 調査内容

調査では、縄文時代中期（約 5,000 年前）と
晩期（約 2,400 年前）の小穴、弥生時代後期

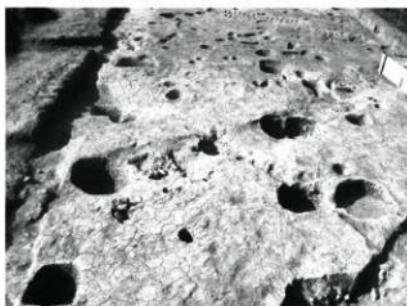
（約 1,800 年前）の方形周溝墓 1 基、弥生時代後期から古墳時代前期（約 1,800～1,700 年前）の堅穴住居跡 5 軒と掘立柱建物跡 8 棟、古墳時代後期（約 1,350 年前）の堅穴住居跡 1 軒などが発見されました。縄文時代中期の小穴からは、土器がつぶれた状態で出土しました。弥生時代後期の堅穴住居跡のうちの 1 軒では、住居のまわりに幅 1 m の溝をめ



縄文土器が出土した様子



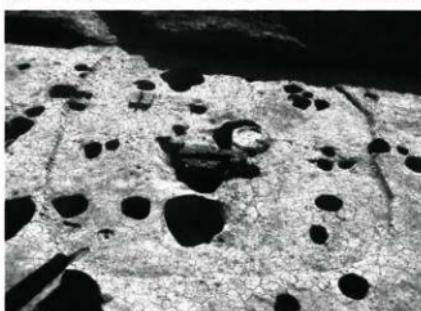
まわりに溝をめぐらせる堅穴住居跡



弥生時代後期の堀立柱建物跡

めぐらせていました。この時代の堅穴住居跡は、市内の各所で発見されていますが、このよう

にまわりに溝をめぐらす堅穴住居跡は、約 1 km 離れた台地上に立地する上ノ平遺跡（寺島）で発見されている程度です。掘立柱建物跡は、地面に穴を掘り柱を立てた建物で、高



古墳時代前期の堅穴住居跡

床の倉庫と考えられます。方形周溝墓は、死者を葬った穴の周囲に四角く溝をめぐらせた墓で、弥生時代中期から古墳時代前期につくられました。古墳時代前期の堅穴住居跡は、ほぼ正方形のもので、固くしまった床と中央付近に煮炊きをする炉が残っていました。古墳時代後期の堅穴住居跡は、煮炊きをする施設として、この時代に登場したかまどがつくられていました。住居内からは、土器とともに矢じりと考えられる

鉄製品 2 点も発見されました。今回の調査は、幡鎌地区で初めて実施された発掘調査となりました。その結果、原野谷川を望むこの台地上が少なくとも約 5,000 年前から人々の生活の場であったことがわかりました。



弥生時代後期の方形周溝墓



古墳時代後期の竪穴住居跡のかまど跡

弥生時代後期から古墳時代前期の集落を発見
よしおかばらいせき

吉岡原遺跡

1. 調査地 掛川市吉岡
2. 調査原因 茶園の改植
3. 調査面積 630 m²
4. 調査期間 平成 22 年 11 月～平成 22 年 12 月
5. 調査内容

調査では、弥生時代後期から古墳時代前期（約 1,800～1,700 年前）の竪穴住居跡 12 軒、溝状遺構などが発見されました。竪穴住居跡は、上から見た形が、角が丸い長方形、楕円形、四角形のものがあります。竪穴住居跡のなかには、壺や甕などが壁際に寄せられたようにまとまって出土したものがあります。溝状遺構には、古墳時代前期の方形周溝墓の溝の可能性があるものもあります。土師器には、壠と呼ばれる壺や伊勢湾沿岸でつくられはじめた煮焼きに使う台付甕などがあります。



壁際から出土した土器

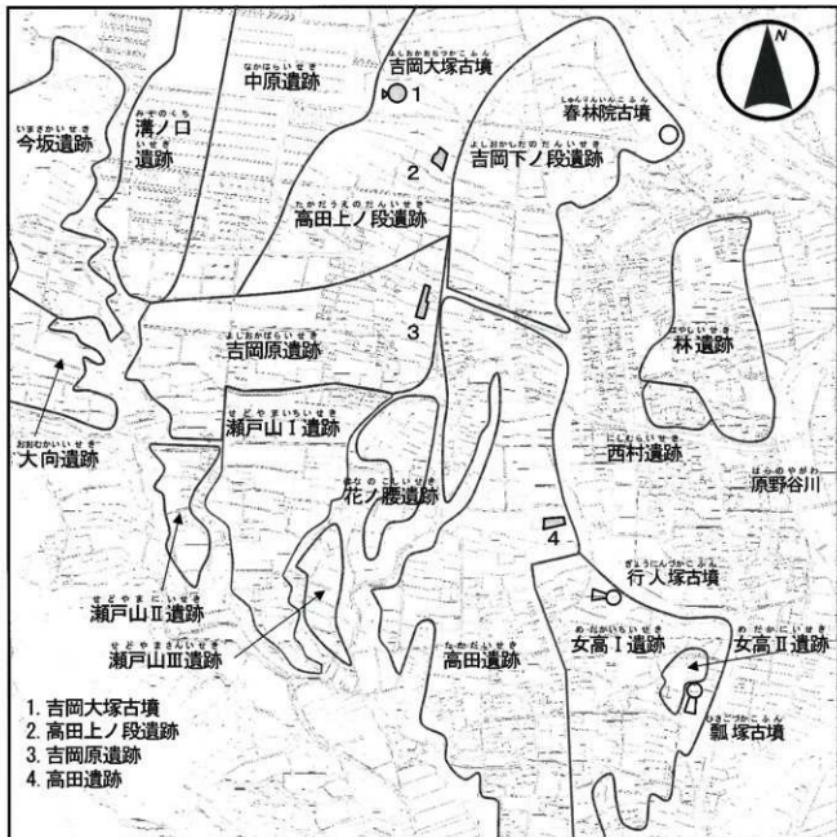
調査では、弥生時代後期から古墳時代前期（約 1,800～1,700 年前）の竪穴住居跡 12 軒、溝状遺構などが発見されました。竪穴住居跡は、上から見た形が、角が丸い長方形、楕円形、四角形のものがあります。竪穴住居跡のなかには、壺や甕などが壁際に寄せられたようにまとまって出土したものがあります。溝状遺構には、古墳時代前期の方形周溝墓の溝の可能性があるものもあります。土師器には、壠と呼ばれる壺や伊勢湾沿岸でつくられはじめた煮焼きに使う台付甕などがあります。



弥生時代後期の竪穴住居跡



竪穴住居跡と方形周溝墓と考えられる溝



高田・吉岡地区の遺跡分布と調査地点

**開発予定地内に遺跡はありませんか?
工事計画の前に確認してください。**

掛川市内には現在702遺跡が知られており、県内でも最も遺跡が多い市だといわれています。遺跡（埋蔵文化財）は、私たちの“心のふるさと”であり、後世の人たちに伝えていくことが大切です。

そのため、『文化財保護法』により、遺跡のある場所で、土木工事や建築工事、茶園の改植などをする場合には、事前に文化庁に届け出をすることが義務づけられています。

届け出をせずに工事を始めたところ、遺跡が見つかったため調査をすることになり、完成が遅れてしまった——ということないように、工事を計画する場合には、早めに掛川市教育委員会社会教育課にご相談ください。

なお、教育委員会・図書館・支所には、市内にある遺跡の様子を示した『遺跡地図』がありますので、工事を計画する前に必ず確認してください。

掛川市教育委員会 社会教育課 文化財係

電話(0537)21-1158

段丘縁辺に立地する集落遺跡

たかだ いせき

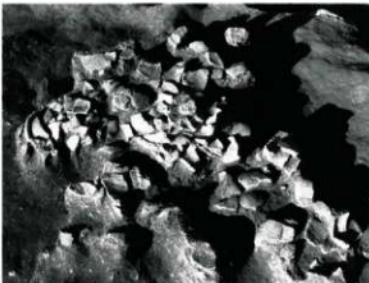
高田遺跡

1. 調査地 掛川市吉岡
2. 調査原因 茶園の改植
3. 調査面積 600 m²
4. 調査期間 平成 22 年 8 月～平成 22 年 11 月
5. 調査内容

調査では、弥生時代後期（約 1,800 年前）

の竪穴住居跡 10 軒、掘立柱建物跡 1 棟など

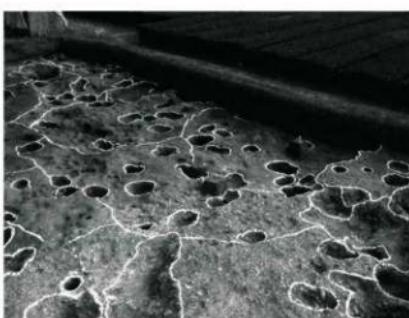
が発見されました。竪穴住居跡は重なるように発見され、この場所で何回も建てられたことがわかります。また、竪穴住居跡のひとつからは、住居跡に堆積した土の中から、2.5 m × 1.5 m の範囲に壺や甕が折り重なって出土しました。これは、使われなくなった竪穴住居が埋まっていく途中で土器が捨てられたことが考えられます。また、江戸時代の火葬跡も発見され、かわらけ（皿）5 枚と銭 6 枚が出土しています。



弥生土器が出土した様子



調査区全景（東から）



重なるように発見された竪穴住居跡

ここからは、平成 22 年度に報告書がまとめられた遺跡について紹介します。

たかだ うえ の だん い せき

高田上ノ段遺跡

調査地は、原野谷川により形成された河岸段丘の東寄りに位置します。調査地の北西 120 m の場所には吉岡大塚古墳があります。調査では、弥生時代後期から古墳時代前期（約 1,800～1,700 年前）にかけての竪穴住居跡 10 軒、掘立柱建物跡 10 棟、古墳時代中期（約 1,550 年前）の古墳 1 基などが発見されました。竪穴住居跡のうち 2 軒は火災で焼失したもので、住居の建築部材が炭になって発見されました。その樹種を分析したところ、サカキやクリなどいずれもかたく強いことが特徴の 6 種があることがわかりました。そのことから、住居を建てる木材には、かたく強い種類の木をいくつか合わせて使っていたことが考えられます。掘立柱建物跡には、3.6 m × 7.3 m の大きさの、市内で発見されたこの時期



の掘立柱建物跡のうちの最大級のものがありました。また、掘立柱建物跡は建物の方向、配置から3つのグループに分けられます。古墳は、幅約1.5mの周溝を持つ、直径約10.5mの円墳と考えられます。この古墳は、吉岡大塚古墳とほぼ同じ時期のものであり、吉岡大塚古墳との関係を考える上で貴重な発見となりました。

弥生時代後期の竪穴住居跡



市内最大級の掘立柱建物跡



古墳の周溝

和田岡古墳群 吉岡大塚古墳

吉岡大塚古墳は、和田岡地区（各和、高田、吉岡）に展開する和田岡古墳群のうち国史跡に指定された大型古墳5基のひとつです。茶畑の広がる段丘上にこんもりと高い墳丘が遠くからもよく見えます。和田岡古墳群で3番目の大きさの全長55mの前方後円墳で、上から見るとホタテ貝のような形が特徴の古墳です。古墳がつくられたのは古墳時代中期（約1,550年前）と考えられます。史跡整備のため、平成19～21年度にかけて発掘調査が実施され、平成22年度に発掘調査報告書がまとめられました。

後円部は、中段に墳丘を取り巻くように幅1～1.5mのテラス状の部分があり、上段と下段の二段に築かれています。下段は地山の上に土を盛ってつくられ、上段は盛り土でつくられていることがわかりました。また、前方部の頂上付近も盛り土でつくられていることがわかりました。この前方部の盛り土がくずれた場所からは、縄文時代の土器や石斧が出土しました。古墳の盛り土にするために周囲の土を削った時に縄文時代の遺跡をこわした結果であると考えられます。後円部と前方部の斜面には、こぶし大から人頭大の石が積まれた葺石が存在します。後円部の頂上、中段テラス、前方部の頂上には、間を開けて凹筒埴輪が立てられていたことが考えられます。円筒埴輪には、口がラッパのように大きく開く朝顔形円筒埴輪と呼ばれるものも出土しています。墳丘の周囲には周溝があり、今回の

調査で上から見た形が熱気球のような形であることがわかりました。

吉岡大塚古墳は、その名前のとおり大きな古墳です。この古墳をつくるためには、大勢の人が作業に参加したことでしょう。大勢の人を動かすことができる力を持っていました、この地域を治めていた人物のためにつくられた古墳なのです。古代の人々が生きてきたことを学習する場として、じょうずに活用しながら、将来にむけて大切に保存していくかなくてはなりません。



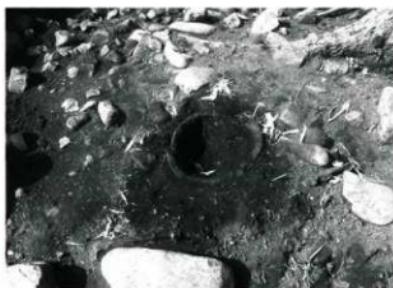
全景（南から）



後円部上段の葺石と中段テラス



後円部東側の様子（東から）



円筒埴輪（基底部）が出土した様子



周溝外側の様子（北から）

遺跡位置図



めいわ いんれき ながやこでがや
明和 9 年(1772)5 月 21 日(陰曆)、現在の長谷小出ヶ谷

地区において銅鐸一口が発見され、掛川藩に届け出されました。

掛川市教育委員会では、この日を記念して、市民の埋蔵文化財に対する理解と保護・保存しようとする意識の向上を願い、

出土文化財展を開催しています。



文化財愛護シンボルマーク